

令和 5 年度 田原中学校 学校評価書【結果】

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

人間の尊厳を重んじる教育を基盤に、生きる力を育むことを目指し、未来を切り拓いていける生徒を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

① 自ら学び実力のある生徒

(基礎・基本を確実に習得し、それらを活用する力を身につけるとともに、目標や、自ら学ぶ意欲をもった生徒を育成する)

② 心豊かで思いやりのある生徒

(自信や自己有用感、規範意識、思いやりをもった心豊かな生徒を育成する)

③ 健康でたくましい生徒

(生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力をもった生徒を育成する)

(3) 生徒指標「よく学び、よく鍛えよ」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

・学校は、子どもたちにとって、「安心できる居場所」であること

・学校は、教職員にとって、「生き甲斐や遣り甲斐を感じる場所」であること

・学校は、保護者・地域の方々から、「信頼される場所」であること

上記のような学校を目指し、心のふれ合う豊かな人間関係に支えられた温かみのある学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえながら、生徒の実態や学校や地域の特色を生かした教育課程の編成と実施に努める。

(2) 学習意欲を高める指導や基礎・基本の確実な定着を図る指導、さらには、個に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習の定着・充実を図ることにより、生徒一人ひとりが自ら学ぼうとする意欲の育成に努める。

(3) 生徒一人ひとりの共感的理解を基盤とした生徒指導の充実を図り、望ましい人間関係を核とする学級集団づくりを通して、豊かな人間性や社会性の育成に努める。

(4) 道徳の時間や心の教育の充実を図り、生徒の内面に根ざした道徳性を育むとともに、読書活動や生徒が主体的に取り組む体験活動を通して、生徒一人ひとりの道徳的実践力を高める。

(5) 家庭や地域との連携を図りながら、健康管理や体力づくりを推進するとともに、食に関する指導の充実を図り、生徒一人ひとりが将来にわたって心身ともに健康に生活していける指導に努める。

(6) 教育活動全体を通して、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの社会的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。

(7) 学校内の連携並びに家庭や関係機関との連携を図った特別支援教育を推進し、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導と長期的な視点に立った支援に努める。

(8) 田原地域学校園内の連携・強化を図りながら小中一貫教育を推進し、学校園教育ビジョンが掲げる生徒の育成に努める。

(9) 愛校心と互助の精神に支えられた望ましい人間関係や教育環境を整備し、良き伝統や地域の特性、教職員の創意工夫を生かした特色ある学校づくりの推進に努める。

(10) 学校・家庭・地域社会との連携を深め、共に歩む学校づくりを推進し、風通しのよい信頼される学校づくりに努める。

(11) 新たな教育課題等への対応と、業務時間の適正化や業務内容の精選に努める。

(12) 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、ICT等を効果的に活用しながら、グローバル化や情報化の一層の発展など、急激な時代の変化に向き合い、生き抜くための資質・能力を身につけさせる。

【田原地域学校園教育ビジョン】 自立を目指しながら積極的に地域社会と関わる田原っ子の育成

4 教育課程編成の方針

(1) 教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、中学校新学習指導要領、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、県教育振興基本計画 2025、第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画等の示すところに従い、公教育の自覚のもとに全職員の理解と協力を努め、本校の学校教育目標達成のため、教育課程を編成する。

(2) 教育課程の編成に当たっては、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力をもつ生徒の育成を目指し、学校教育目標を達成するよう留意する。

(3) 道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うことを基本とし、道徳教育充実のため、教師と生徒及び生

- 徒相互の人間関係を深めるとともに、家庭や地域社会との連携を図るよう留意する。
- (4) 体育・健康の指導は、学校教育全体を通じて適切に行い、特に体力の向上及び心身の健康の保持増進については、保健体育科の時間はもとより、特別活動などにおいても十分指導できるよう留意する。
- (5) 本校の生徒や地域の実態を適切に把握し、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくことに努める。
- (6) 小中9年間の一貫した教育課程の編成のため、地域学校園で連携を図り、教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

「生徒一人ひとりの主体性を高める指導の充実」 ○自分の力でやり遂げる体験や場の設定により自己肯定感を高める支援の充実 ・活動の意欲を高め、粘り強く取り組ませる指導の推進と強化 ・互いに信頼し、認め合う集団づくりの推進と強化	「基礎・基本を確実に習得させ、自ら学ぶ意欲を育てる指導の充実」 ○課題解決に向けて粘り強く学習する態度の育成 ・学びに向かう集団づくりの推進と強化 ・わかる授業を展開する工夫の推進と強化 ・個に応じた指導実践の推進 ○小中連携による家庭学習の習慣化の推進と強化	「未来を生き抜く力を養う指導の強化」 ・自律した情報の使い手となるための教育の推進 ○郷土への愛情を育む学習の推進 ・英語教育・国際理解教育の充実
---	--	---

(2) 学習指導

「基礎・基本を確実に習得させ、それらを活用する力を育成するとともに、目標をもち、自ら学ぶ意欲を育む」

○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- ・書いたり伝えあったりするなど、言語による振り返りの充実
- ・教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
- ・宮・未来キャリア教育の充実

(3) 児童生徒指導

「心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりなど、豊かな心を育む」

○不登校を生まない指導・支援の充実

- ・宮っ子心の教育の推進
- ・認め励ます教育の一層の推進

○体験活動・読書活動の充実

(4) 健康(保健安全・食育)・体力

「生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する」

- ・元気アップ教育の推進

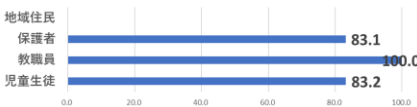
○運動に親しみ、体力を高めようとする資質・能力の育成

- ・健康を管理する能力の育成
- ・望ましい食習慣の形成及び食に対する感謝の念の育成
- ・危険予測・回避能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

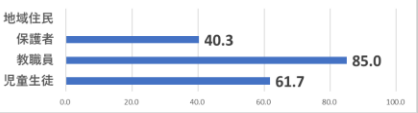
第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	・周囲と話し合う活動を取り入れ、協同的学習時間を確保し、自分の意見や考えを再構築させるなど、深い学びの実現に向けた授業改善をする。 ・「主体的に取り組む態度」の資質・能力の育成を意識した授業展開を工夫し、学びに向かう力の向上を図る。	B	【達成状況】  <table><tr><th>対象者</th><th>達成率</th></tr><tr><td>地域住民</td><td>83.1</td></tr><tr><td>保護者</td><td>100.0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>83.2</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・継続指導で、学に向かう力の向上を図る。	対象者	達成率	地域住民	83.1	保護者	100.0	教職員	83.2
対象者	達成率											
地域住民	83.1											
保護者	100.0											
教職員	83.2											

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	・道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践して行く。 ・朝の会や帰りの会等で、生徒の善行を賞賛する機会を増やしていく。	B 【達成状況】 【次年度の方針】 ・左記の取り組みを継続して行う。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	・すべての学校教育の中で、発達段階に応じたキャリア教育を推進し、今後の社会を積極的に形成することができる力を育成する。 ・体験活動が生徒一人一人のキャリア形成の一助になるよう、それぞれの目標や課題に沿った活動になるよう支援指導を行う。 ・教職員が「キャリア教育の目標」を共有し、重点化しながら、生徒の社会形成力の育成を図る。	A 【達成状況】 【次年度の方針】 ・左記の取り組みを強化し、継続指導する。 ・教職員が「キャリア教育の目標」を共有し、重点化しながら、生徒の社会形成力の育成を図る。
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	【健康増進に関して】 ・昼休み、校庭において身体を動かす呼びかけをする。 ・放課後、積極的に部活動に参加するよう促す。 ・健康教育の実施 【食育に関して】 ・家庭科と連携した栄養指導の実施 ・給食委員会によるマナー指導 ・「お弁当の日」を活用した栄養指導 ・小・中連携した給食指導の実践 【安全教育に関して】 ・避難訓練等に課題意識をもって積極的に参加させる。 ・日頃から、危険箇所について意識させ、身を守ることを第一に、危機管理能力を育成する。	B 【達成状況】 【次年度の方針】 ・左記の取組を強化し継続して行う。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	・特別の教科 道徳の時間を通して自分自身を見つめる機会をもたせる。 ・学校行事を通して他者と意見交換や協働することで居がいや遣りがいを味わわせる。	A 【達成状況】 【次年度の方針】 学校生活全般を通し、生徒の自尊感情を育てるとともに、互いに認め合いながら協働活動を行える行事を企画する。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	・外国語の授業や総合的な学習の時間などでの言語活動の充実を図る指導により、コミュニケーション能力を高める。 ・修学旅行や社会体験学習などの校外活動等の機会を活かして、積極的に外国人とのコミュニケーションを図らせる。	B 【達成状況】 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
	A 7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	・「宇都宮学」の時間を通して、探究的な学習を行うことで郷土への愛情を育む。 ・社会科の教科指導の中で、地理や歴史において宇都宮市と比較させ、理解を深める機会を増やす。 ・食育及び委員会活動における地産地消や郷土の食文化の紹介等の取組を通して、宇都宮市の良さに触れる機会を増やす。	A 【達成状況】 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。 ・総合的な学習の時間で調べたことを文化祭で発表し、広く周知させる。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 生徒は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	- 読書活動やNIE 活動の積極的な推進で、図書資料等を学習に活用する力を高める。 - GIGA スクール構想での生徒1人1台PC端末の導入において、各授業で積極的にICT機器を活用していく。 - 教師が積極的にICT活用に対する研修を重ね、パソコン教室及び個人用PC端末の活用により授業力向上を図る。	A	【達成状況】 【次年度の方針】 - 左記の取り組みを継続していく。 - 教師においては、生徒に積極的にICTを活用するため、個々に授業案の検討を行う。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	- リサイクルやゴミの分別等に積極的に協力させ、環境への意識を高める。 - 各教科指導の中で、持続可能な社会についての関連等に触れると共に、実現に向けた工夫について考える機会を増やす。	A	【達成状況】 【次年度の方針】 - 左記の取組を継続して行う。 - SDGs に関する活動の実践。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%	- 随時、生徒一人一人の課題を全職員で共有しながら、適切な支援を行う。 - 市教育センター等との連携を図りながら、実態に応じた適切な指導の情報を得たり、指導を仰いだりし、教職員の指導力を高める。	B	【達成状況】 【次年度の方針】 日々生徒の様子を観察しながら、左記の取組を継続して行う。
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%	- 道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践して行く。 「いじめ防止アンケート」等の教育相談機能により、早期発見に努めると同時に、いじめの根絶をめざし、組織としての的確な対応を行う。 - 根絶、防止、早期発見に向けての組織的な対応を図る。 - 地域や家庭との連携と啓発を図る。	B	【達成状況】 【次年度の方針】 左記の取組を継続していく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%	- 道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践して行く。 「Q-Uアンケート」等のアンケート調査結果や毎日の日録指導を通して、生徒の一人一人の課題の把握や心に寄り添う指導を進める。 - 生徒一人一人の課題の把握や心に寄り添う指導の充実を図る。	B	【達成状況】 【次年度の方針】 左記の取り組みを継続していく。
3- (3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	- 本校の特色ある取組みの一つであるGCR活動で、生徒に活動の検証をさせながら自主的・主体的に取り組むようにする。 - 学校行事を通して、生徒同士が協働して行事を企画運営することで自己理解や他者理解への興味・関心を高めるとともに、豊かで心穏やかな心情を育む。	A	【達成状況】 【次年度の方針】 - 強化週間を計画的に実施し、更なるGCR活動の推進を図る。 - 各委員会活動の内容の見直しをする。
3- (4) 多様な教育 的ニーズへの 対応の強化				

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や生徒にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	- 授業の中で、「めあて」を黒板に書 くことや、言葉による「振り返り」を 必ず行い、何を学習したのかを書い たり伝えあったりして、生徒に確認 させる。 - 全教職員により、計画的に研究授 業・研究協議を実施し、指導力の向 上に努める。 - 個人用PC端末の活用による授 業の導入・内容・振り返りの工夫を 図る。	B	【達成状況】 【次年度の方針】 めあてと振り返りに関しては、確実に 行うようにして、分かる授業やきめ細や かな指導をしていく。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力し て業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%	- 教育目標及び学校経営の方針を 全職員が意識し、全教育活動でそれ が生かせるように活動しながら業務 を進める。 - 各部会を核に、関係職員が情報を 共有しながらSCやMS等の専門 性を活かし連携を図る。	B	【達成状況】 【次年度の方針】 左記の取組を継続して行う。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%	- 教職員一人一人が勤務時間の管 理を行い、現状を数値で確認する。 - 指導のねらいを常に意識しなが ら、準備等の分担や精選を行うなど、 業務の効率化に励む。	B	【達成状況】 【次年度の方針】 左記の取組を継続して行う。
5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教育 ・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	- 田原地域学校園（他2つの小学 校）において、運営会議を定期的に 開き、小・中の連携を図る。 - あいさつ運動や冒険活動教室の 共同実施、中学校訪問等、小・中合 同で実施する行事の一層の充実を 図る。 - 新しい小中一貫教育や地域連携 のあり方を考え、生徒会活動等を通 して小中交流の充実を図る。	A	【達成状況】 【次年度の方針】 - 教職員の相互交流（授業参加等）の充 実を図る。 - 児童生徒の直接交流の機会を創出す る。 ※陸上大会、水泳合同練習等
5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進	A18 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力して、 教育活動や学校運営の充 実を図っている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%	- PTAや地域協議会と連携し、学 校教育活動を通して、交流を深め、 支援・協力を得る。 - 学校が地域社会と連携し、積極的 にボランティア活動や行事への参 加・協力をする。	A	【達成状況】 【次年度の方針】 - 宇都宮オープンスクールの取り組み の充実を図る。 - 学校園内各地域協議会との連携を図 り、情報共有を行う。
5- (3) 地域と連 携・協働し た学校づく りの推進				
6- (1) 安全で快適 な学校施設 整備の推進	A19 学校は、利用する人の 安全に配慮した環境づく りに努めている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 90%	- 学校における施設・用具等の整理 整頓及び計画的な修繕、委員会を中心 としたGCR活動のC（清掃）に 力を入れる。 - PTAや地域協議会の協力のもと、 花壇や学校農園の充実を図る。 - 学校施設開放や避難所開設時の 環境づくりの推進を図る。	B	【達成状況】 【次年度の方針】 左記の取組を継続して行う。
6- (2) 学校のデジ タル化推進	A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワー クの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができています。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%	- ICT機器の点検を定期的に行い、 問題の早期発見に努める。 - モバイルルータを活用し、インタ ーネット接続の不具合に対応でき る環境を整える。 - 毎日の充電を呼び掛けていく。	B	【達成状況】 【次年度の方針】 左記の取り組みを行っていく。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	- GCR活動のG:(あいさつ)を充実させるため、生徒会を中心とした取組の充実を図る。 校内あいさつ運動の推進 地域学校園内のあいさつ運動の推進 - 授業や学校生活の中で、その場に応じたあいさつの習慣化を図る。 - 生徒会・委員会活動での啓発を推進し、礼儀正しく、場に応じた言動がとれる生徒を育成して行く。	【達成状況】 【次年度の方針】 左記の取組を継続して行う。
	B 2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	- 教職員は、日課表を基に、生徒にチャイムや学校のきまりを守って生活することの大切さを理解させる。 - 言語環境を含め、安全・安心な環境整備に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
	B 3 生徒は、主体的に家庭学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	- 毎週水曜日を「家庭学習の日」とし部活動なしで一斉下校させる。 - 生徒が主体的に学習に取り組めるよう、課題の出し方を工夫する。 - 学年に応じた自主学習を推奨する。 - 保護者と連携し家庭学習の習慣を育てる。	【達成状況】 ・1年次から学習方法を指導・助言し、左記を継続する。
	B 4 生徒は、「田原のあいさつは日本一」を意識して生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	- 生徒会・委員会活動で、生徒が自主的にあいさつできるよう啓発活動を行う。 - ビデオやTVを利用し、啓発の仕方を工夫する。 - GCR活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直し・改善を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】 左記の取組を継続して行う。
	B 5 生徒は、清掃活動に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	- GCR活動のC(清掃)の一層の充実を図る。 全教職員による率先垂範 時間で始め、時間で終わる指導の徹底 - 生徒会・委員会活動での啓発活動を行う。 無言清掃、清掃コンクール等の実施 委員会朝会での啓発活動の実施 清掃の仕方VTRによる啓発 - GCR活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直し・改善を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。 ・GCR強化週間で、更なる推進を図る。

	B6 生徒は、朝の読書の時間以外にも読書に親しんでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	・ G C R活動の R (読書)の一層の充実を図る。 - 朝の読書 (10 分間) 実施 - 担当教員 (担任) による率先垂範 ・ 生徒会・委員会活動での啓発活動を行う。 - 多読コンクール等の実施 - 給食委員会とのコラボ企画等を通じた啓発活動の実施 - 図書室の配架や学級文庫の充実 ・ G C R活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直し・改善を図る。 ・ 生徒会活動の充実 ・ 学校図書館司書と連携した取組 ・ 日常的な読書への啓発活動の充実	【達成状況】  【次年度の方針】 ・ 左記の取組を継続して行う。
--	---	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、評価書文頭の 1 から 4 の目標・理念・方針のもと、学習指導では、「基礎・基本を確実に習得させ、それらを活用する力を育成するとともに、目標をもち、自ら学ぶ意欲を育む」

生徒指導では、「心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりなど、豊かな心を育む」

健康指導では、「生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する」

というテーマを掲げて取り組んできた。

○小中一貫・地域学校園では、『自立を目指しながら積極的に地域社会と関わる田原っ子の育成』を教育ビジョンとして取り組んできた。

【令和 4 年度評価との比較において】

・ 生徒の肯定的評価

今年度は評価項目の見直しに伴い昨年度と比較できる項目が 6 項目であったが、肯定的評価がアップしたのは、2 項目にとどまった。生徒指導や教育相談などの項目 (A2・A11・A12・A13) ではほぼ 90% を超えているが、学習面や自己肯定感の項目 (A3・A6・A8) ではポイントが低い傾向にある。次年度は、より分かる授業・きめ細やかな指導を行うとともに、生徒に達成感を味わわせる活動となるよう心掛けていく。

・ 地域住民の肯定的評価

10 項目中、4 項目が 100% だった。あいさつやマナーなどの項目が 90% 以下だったので、今後も「地域社会と関わる田原っ子の育成」に努めていく。

・ 保護者の肯定的評価

13 項目中、9 項目が低下している。特に A4「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している」や A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」の項目では 6 ポイント以上下がっている。次年度は、「学校は安心・安全な所である」という意識の重要性を再度教職員で確認し、安全教育・教育相談により力を入れていく。

・ 教職員の肯定的評価

15 項目中、13 項目がアップしている。特に A3「生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」では 14 ポイントアップしている。今年度は全ての学校行事を実施することができ、生徒の活躍が多方面で見られたためだろう。来年も引き続き、教職員全員で明るく活気ある学校づくりをしていきたい。

【市平均との比較】

・ 市平均を上回っている項目が生徒で 2 項目、地域で 4 項目、保護者で 3 項目、教職員で 14 項目であり、ほとんどが市を下回る状況であった。教職員とその他の評価が大きく異なるため、生徒や保護者・地域に寄り添いながら次年度の活動を進めていきたい。

7 学校関係者評価

地域協議会委員より

- ・ 評価から学校の取組が概ね良好であることがうかがえる。
- ・ 学校に来たときには、子どもたちが元気にあいさつをしてくれている。
- ・ 地域の行事にボランティア活動として参加してくれる生徒が多く、地域としても助かっている。
- ・ 環境美化活動では、積極的に参加している生徒が多かった。
- ・ 花壇の手入れなど工夫を凝らして取り組んでいるようだ。
- ・ 運動会では活気ある応援合戦などが見られて楽しめた。
- ・ 教育講演会では、動物と触れ合う姿が微笑ましかった。
- ・ 今は学校に来ない生徒がいると聞いているので、学校の対応も大変だろうが配慮してほしい。
- ・ 朝の登校時には、いくつか危険な場所があり学校でも指導してほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ A 2 「生徒は、思いやりの心をもっている」では、生徒 89.9%，教職員 100%，保護者 91.9%，地域住民 100%といずれも高い評価を得ている。また、B 1 「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」では、生徒 94.0%，教職員 90%，保護者 81.9%，地域住民 83.3%といずれも 80%以上の評価を得ている。この生徒の特長を生かしながら、生徒の健全育成、温かみのある学校づくりを行っていきたい。
- ・ A 1 7 「小中一貫教育・地域学校園」では、生徒 82.6%，教職員 95%，保護者 84%，地域住民 83.3%といずれも高い評価を得ており、地域との連携が取れているのが本校の強みである。また、A 1 9 「利用する人の安全に配慮した環境づくり」では、教職員 95%，保護者 84.2%，地域住民 100%と高く、引き続き、PTA や地域協議会、機動班と連携しながら安全な学校環境づくりを行っていく。
- ・ 今年度高い評価を得た A 1 2 「不登校を生まない学級経営」（生徒 96.6%，教職員 100%，保護者 87%）を維持促進していくために、生徒個人に寄り添えるよう教育相談や三者懇談などの機会を有効に活用し生徒理解を深めていく。また、生徒の自尊感情を高めるため、成功体験や充実感を味わえるように生徒主体の学校行事を企画運営していく。
- ・ B 3 「生徒は、主体的に家庭学習に取り組んでいる」では、生徒 78.6%，教職員 75%，保護者 59%であった。本校では、例年生徒の学力向上が大きな課題である。A 1 4 「わかる授業・きめ細やかな指導」において、生徒は 91.9%，教職員は 100%と高く評価しているものの保護者が 65.2%と低い評価になってしまう要因の一つには、生徒の学力の向上が感じられないことに起因すると思われる。生徒の学力向上に向けて授業だけでなく家庭学習も含めた取り組みが必要だと思われる。
- ・ A 1 1 「いじめ問題」では、生徒が 94%，教職員が 100%なのに対し、保護者は 65%である。いじめはもちろん個人の人権を守る立場から教職員が普段から肯定的な言動心掛けるとともに、ダメなものはダメと一貫して指導していくことで、学校が生徒にとっても保護者にとっても安心できる場所となるよう努力していく。